



学校だより 2月

“桜川 学びのエリア：桜川中・桜川小”

令和8年1月30日
板橋区立桜川小学校
No.10



自分なりの考えをもち、表現すること



校長 八代 麻子

日を追うごとに寒さが厳しくなり、寒風に身の縮む思いがします。桜川小の両隣は、緑豊かな城北中央公園と安養院。木々の葉が、風の冷たさに大きな音を立てながら耐えているのを見るにつけ、自分も頑張らなければと思われています。まるで、木々と対話しているかのような感覚になっているから不思議です。

一方、子どもたちは元気いっぱい。陽射しも出てくる休み時間、中庭や校庭で体を動かしています。今年度は季節を問わず、学級閉鎖が区内でも報告されていますが、本校は今のところ、流行の波は落ち着いています。引き続き、健康に留意しながら2週間後に近付いてきた「さくらっ子発表会」に向けて準備を整えていってほしいと思います。

最近「思いや考えをもち、伝えることの大切さ」を、改めて実感することがありました。（先日の全校朝会で、子どもたちにも話しました。）

ある小学校の道徳授業地区公開講座で、講演会に代わり「大人と子どもの討論会」が企画されていました。「どっちが正しいの？」・「これって本当？」と迷うこともたくさんある世の中。子どもたちへのアンケートで、特に意見が分かれた問いについて、大人と子どもの代表が話し合うというものでした。（討論会には4年生以上が参加でした。）当日、討論のテーマに挙げられていたのは、以下の5つでした。

- 多数決で決めるのは、本当に公平なのだろうか？
- 自分の人生。自分のために生きるのがよいのか？ 人のために生きるのがよいのか？
- 「みんななかよく」は、絶対に必要なのだろうか？
- たたかれたら（やられたら）、やり返してよいのだろうか？
- 夢は、小学生のうちにもたないといけないのだろうか？

どの問いも、うなずけるものばかりでした。代表者がそれぞれの立場から意見を述べ、参加者も一緒に考えてみる良い場となっていました。皆さんは、どのような考えをおもちになったでしょうか。

先日の「いたばし学級活動の日」の授業公開でも、考えを伝え合うこと・自分の意見との共通点や相違点を見いだすこと・他の意見を受け止めることなど、身に付けてほしいと思うことを実践している、さくらっ子の姿が見られました。

今後も、より楽しい・よりよい学校づくりのために、コミュニティ・スクール委員会の方々、保護者・地域の皆様、教職員、子どもたちの意見を集め、知恵を絞ってまいります。

昨年末に「登校班に関するアンケート」をお願いいたしました。結果と今後に向けてのお知らせ文書を、来週前半には配信できるよう準備を進めております。

また「学校評価アンケート」へのご回答も、ありがとうございました。教職員や児童向けにもアンケートを実施しました。結果については、学校だより3月号にてご報告いたします。